

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 23 年 1 月 13 日 (2011.1.13)

【公表番号】特表 2009-536188 (P2009-536188A)

【公表日】平成 21 年 10 月 8 日 (2009.10.8)

【年通号数】公開・登録公報 2009-040

【出願番号】特願 2009-508479 (P2009-508479)

【国際特許分類】

C 07 H 19/24 (2006.01)

A 61 K 31/7068 (2006.01)

A 61 P 31/12 (2006.01)

【F I】

C 07 H 19/24 C S P

A 61 K 31/7068

A 61 P 31/12

【手続補正書】

【提出日】平成 22 年 11 月 15 日 (2010.11.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

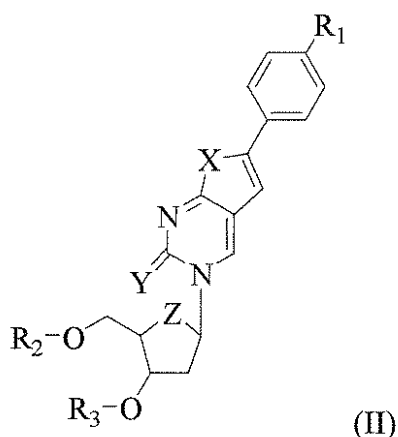
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一般式 (I I) :

【化 1】



[式中、

X は、O、S、NH、または CH₂ であり；

Y は、O、S、または NH であり；

Z は、O、S、または CH₂ であり；

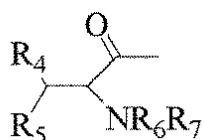
R₁ は、C₁ ~ 6 アルキルであり、n - ペンチルまたは n - ヘキシルを含む n - アルキルが好ましく；

R₂ および R₃ の 1 つは H であり、そして R₃ および R₂ の他方は中性で非極性のアミノ酸分子である]

で示される化合物、またはその医薬的に許容し得る塩もしくは水和物。

【請求項 2】

【化 2】



R₄、R₅、R₆ および R₇ が各々独立して H または C₁ ~ C₂ アルキルである]
である、請求項 1 記載の化合物。

【請求項 4】

【請求項 5】

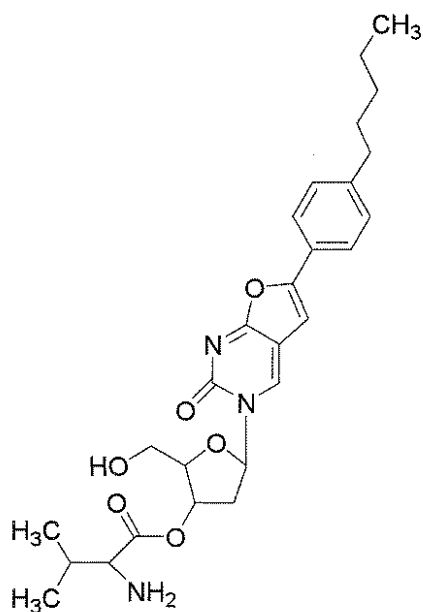
【請求項 6】

【請求項 7】

【請求項 8】

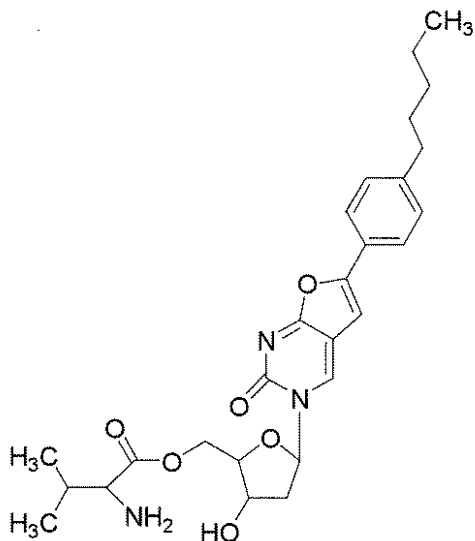
式：

【化 3】



化合物 3

【化 4】



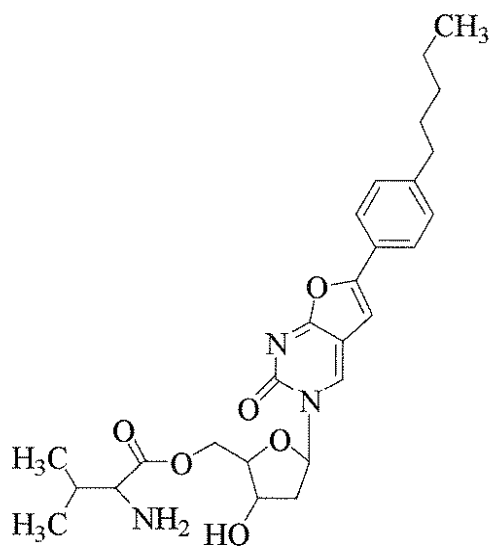
化合物 5

、または化合物 3 もしくは化合物 5 の塩酸塩である、請求項 1 記載の化合物。

【請求項 9】

式：

【化 5】



・ HCl

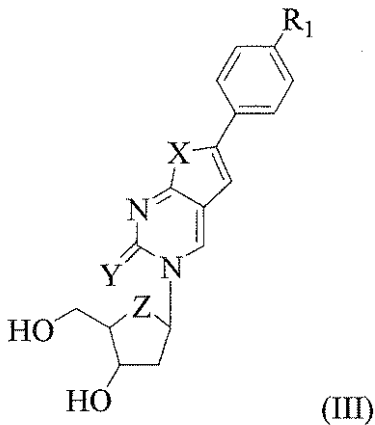
化合物 6

である、請求項 1 記載の化合物。

【請求項 10】

式 (I I I)：

【化 6】

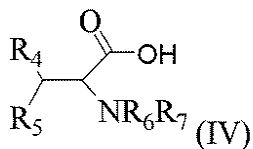


の化合物を、保護された中性で非極性のアミノ酸（ここで、 R_1 、 X 、 Y および Z は請求項 1 に定義する通りである）を用いてエステル化し、その後に適宜、得られたエステルを酸と反応させて医薬的に許容し得る塩を得ることを含む、請求項 1 ～ 9 のいずれか 1 つに記載の化合物の製造方法。

【請求項 11】

アミノ酸が式（IV）：

【化 7】



（式中、 R_4 、 R_5 、 R_6 、および R_7 が請求項 2 に定義する通りである）を有する、請求項 10 記載の方法。

【請求項 12】

R_6 および R_7 が共に H であり、そして該 - アミノ基が、3,9 - フルオレニルメトキシカルボニル（Fmoc）保護基によってエステル化反応の間に保護される、請求項 11 記載の方法。

【請求項 13】

エステル化をミツノブ条件下で行なう、請求項 10 ～ 12 のいずれか 1 つに記載の方法。

【請求項 14】

更に、エステルを HCl の溶液を用いて処理して塩酸塩を得ることを含む、請求項 10 ～ 13 のいずれか 1 つに記載の方法。

【請求項 15】

R_1 が n - ペンチルまたは n - ヘキシルであり、 X 、 Y および Z が全て O であり、そして R_4 および R_5 が共にメチルである、請求項 10 ～ 14 のいずれか 1 つに記載の方法。

【請求項 16】

ウイルス感染症の予防または治療のための医薬の製造における、請求項 1 ～ 9 のいずれか 1 つに記載の化合物の使用。

【請求項 17】

請求項 1 ～ 9 のいずれか 1 つに記載の化合物の有効量および医薬的に許容し得る賦形剤を含有する、ウイルス感染症の予防または治療のための医薬組成物。

【請求項 18】

請求項 1 ～ 9 のいずれか 1 つに記載の化合物を医薬的に許容し得る賦形剤と組み合わせる含有する、医薬組成物。